日本語

ACCRETECH

環境・社会報告書
2015

ACCRETECH 東京精密

編集方針

本報告書は、持続可能な社会の実現に向け東京精密グループが果たすべき責任、役割や取組みを具体的にまとめたものです。CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）とは、ステークホルダーの皆さま、地域社会との信頼関係をより深めるために東京精密グループの積極的な取組み状況を開示してまとめたものです。皆様の忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

本年度からは社長直轄のCSR推進室を設置し、国際基準EICCに準拠した環境の拡充を図っております。来年度以降は具体的な指標や具体例を掲げ、私たち自身が活動内容を整理し確信するとともに、社会的な評価をいただくためのコミュニケーションツールに育てていきたいと考えております。東京精密グループは、「地球環境にやさしい技術で貢献するグローバル企業」として、夢のある未来の実現を目指します。

本報告書の対象範囲

対 象 期 間：2014年4月1日～2015年3月31日

対 象 組 織：株式会社東京精密
半導体社　八王子工場（東京都八王子市）
計測社　土浦工場（茨城県土浦市）
業務会社（東京都八王子市）
計測社　営業所（国内14営業所）
半導体社　営業所（国内3営業所）

＜関係会社＞　株式会社東精エンジニアリング
本社／工場（茨城県土浦市）
名古屋事業所（愛知県みよし市）
株式会社トーセーシステムズ
本社（東京都八王子市）
株式会社アクレーテク・クリエイト
本社（東京都八王子市）

報告書発行：2015年11月

前 回 発 行：2014年10月

CONTENTS

ごあいさつ 2

世界のものづくりを支える東京精密 4
東京精密の製品と社会 ～企業理念～

ガバナンス

統治体制 6
コーポレートガバナンス体制

コンプライアンス 7
コンプライアンス管理体制／適切な情報管理／
安全保障輸出管理プログラム／
内部通報制度／コンプライアンスに関する取り組み／
コンプライアンス教育

リスクマネジメント 9
リスク管理体制／ BCP（事業継続計画）／情報セキュリティ

地球環境にやさしい技術で貢献するグローバル企業

品質の管理体制 10
品質保証システム／ CS

製品含有化学物質の管理 11
環境配慮型製品への取り組み／製品含有化学物質の管理

エコプロダクツ 12
エコプロダクトの充実

社員がいきいきと働ける企業

従業員とのかかわり 13
いきいきした人材育成の推進／雇用政策／
人的能力開発／労働安全衛生／防災への取組／
事故報告と緊急事態想定訓練

夢のある未来へ

お客様とのかかわり 16
グローバルで高機能なサポート体制

株主・投資家とのかかわり 17
株主・投資家の皆様とのかかわり／
株主総会／決算説明会

公共政策／行政機関とのかかわり
公共政策／行政機関などとの関係

地域とのかかわり 18
道路アドプト制度の受入（八王子工場）／
地域での美化活動の実施（土浦工場）／
インターンシップ／土浦工場の安全管理が表彰される／
ボランティア活動～エコキャップ～／太陽光パネル／責任ある調達
事業推進により第６工場を建設中

物流の環境配慮 22
容器リサイクル／ MRP 化／
計画運行および低燃費運転教育による環境負荷低減

環境

環境マネジメント 24
環境管理体制／環境理念／環境負荷／内部環境監査

地球温暖化防止に向けた環境目標と実績 26
環境目標と実績／地球温暖化防止への対応

エコファクトリー 28
省エネルギー／化学物質管理／廃棄物対策／
リサイクル率向上／用水管理

環境保全活動の歩み

会社概要 32

「ステークホルダーとのWIN-
社会との共生を目指します。

MOTTO（行動指針）

WIN-WIN の仕事で
世界 No.1 の商品を創ろう!

CSR活動に向けてのスローガン

「地球環境にやさしい技術で貢献する
グローバル企業」の実現

社員がいきいきと働ける企業をめざして

夢のある未来へ

はじめに

東京精密グループは創業当初から今日に至るまで、お客様、株主様、ビジネスパートナーの皆様など多くのステークホルダーの方々に支えられて成長してまいりました。改めて厚く御礼申し上げます。

当社は今後も「夢のある社会を創る」、「豊かな生活を築く」、「地球環境にやさしい技術で貢献する」を目的に、半導体製造装置／精密測定機器メーカーとして、価値ある技術・サービスの提供に真摯に取組んでまいる所存です。そして、その使命を経営陣と従業員が共有し明るく元気に働ける、夢と希望に満ちた会社を目指してまいります。

「地球環境にやさしい技術で貢献する グローバル企業」の実現

ものづくりの分野では、グローバル化、環境問題への対応、IT の進展など、速くて大きな経営環境の変化が起こっています。東京精密グループは、グローバル企業として、自らも環境の変化に迅速に対応すると共に、培ってきた精密測定技術と精密加工技術を通じて、お客様のものづくりのイノベーションのお手伝いをしてまいります。東京精密グループは、「健康・安全」、「品質」、「環境・省エネルギー」、「全員力」を基本的な考え方としています。これらに基づいた事業活動により、優れた半導体製造装置と計測機器を開発・供給することを通じて、お客様にご満足をいただき、社会に貢献してまいります。2015年10月に、社会的責任の重要性から、社長直轄のCSR推進室を設置しました。これにより、EICCに準拠した環境を整えたことを宣言し、今後は全社的にCSR活動を推進いたします。

社員がいきいきと働ける企業をめざして

当社は、「社員は会社の財産」であるとの考えのもと、社員とともに歩んでまいりました。社員がいきいきと輝いてこそ積極的に多くの挑戦を行うことができ、お客様、社会へ大きな貢献ができると考えております。また、2001年1月にコーポレートブランド【ACCRETECH】を導入し、社員および株主、お客様にとって価値の高い

WIN　RELATIONSHIP」をモットーとして、

代表取締役社長 CEO　吉田 均

会社にするよう全社で取り組んでおります。こうした、取組みが多くの人々に理解され関心を持っていただいた結果、幅広い人材が当社を訪れるようになりました。社員が一丸となって新たな成長への一歩を踏み出せるよう、今後も社員が働きやすく、更なる夢と活力に満ちた環境を整える一助として、省エネ法による昼間電力の削減を目的として、太陽光発電設備を設置し環境への配慮を推進し、働きやすい職場を目指しております。

夢のある未来へ

当社は、「最先端の技術とサービスで、夢のある社会の発展に貢献します」という基本理念のもと、経営者と社員が一体となって、このダイナミックな市場の中で、技術革新に常に挑戦し、市場創出により継続的な成長と事業拡大を目指してまいります。また、真のグローバルカンパニーとして世界中の「ステークホルダーとのWIN-WIN RELATIONSHIP」をモットーとして、社会との共生を目指し、皆様の信頼に応え、透明性の高い経営を維持してまいります。

今後とも皆さまの変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

世界のものづくりを支える東京精密

世界中の優れた知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様とともに成長していきます

東京精密の企業理念

東京精密は、「世界中の優れた知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様とともに成長していくこと」を企業理念としています。当社のコーポレートブランドACCRETECHは、Grow Togetherという意味の「ACCRETE」と「TECHNOLOGY」の合成語で、当社の企業理念を一語で表したものです。

東京精密グループは、「健康・安全」、「品質」、「環境・省エネルギー」、「全員力」を行動指針としています。行動指針に基づいた事業活動により、優れた半導体製造装置と計測機器を開発・供給することを通じて、お客様にご満足をいただき、社会に貢献してまいります。

半導体製造装置

半導体市場最大の牽引役は、いまや生活必需品となったスマートフォンや自動車、航空機などとその周辺デバイスで、その進化はとどまるところを知りません。これに続く成長分野と目されるIoT（Internet of Things: モノのインターネット）、クラウドコンピューティングに対応したストレージ、通信インフラ機器向けデバイスや車載デバイスなどの心臓部には半導体が使用されております。

小型化・携帯化が求められるこれら機器の大きさを変えずに機能を充実させるためには、半導体の性能を上げつつ、より小さく、より薄くする必要があります。

東京精密は、これらの要求を満たす半導体を製造するための半導体製造装置を提供しています。プロービング・マシンやポリッシュ・グラインダなどの製品を通して、豊かで快適な人間生活に寄与しています。

エッジグラインダ
エッジグラインダは、ウェーハ周辺部の面取りをする装置です。

CMP
CMPは、ウェーハ表面の凹凸面を平坦化する装置です。半導体デバイスの多層化や、配線材料の多様化に伴い、その用途は拡大しています。

ポリッシュ・グラインダ
ポリッシュ・グラインダは、ウェーハの裏面を研削すると同時に、ダメージ層を除去し、薄くて強いウェーハを作ります。

プロービング・マシン
プロービング・マシンは、ウェーハ上に形成された半導体チップの電気性能テストをプローブカードを経由して、半導体テスタと接続し、実施する装置です。

ダイシング・マシン
ダイシング・マシンは、ウェーハ上に形成された多数の半導体チップを1個1個のチップに切断する装置です。

スライング・マシン

スライング・マシンは、半導体の基となるシリコン単結晶インゴットをスライスして、ウェーハと呼ばれるシリコン基板を切り出す装置です。

三次元座標測定機

直行座標系にスケールを備え、測定物とプローブの位置関係をX、Y、Zの座標として読み取る測定機で寸法、位置、形状、幾何偏差などの評価をします。

自動計測機器
（マシンコントロールゲージ）

主に、工作機械の円筒研削盤などでオンマシン計測するゲージヘッドと管制部のシステムです。インプロセス、ポストプロセスの選択が可能です。

真円度・円筒形状測定機

真円度測定機は、一般に「丸い」とか「円」が理想の円（幾何学的に正しい円）と比べたときに、どの程度誤差をもっているかを評価します。

表面粗さ・輪郭形状測定機

表面粗さ測定機は、加工された測定物表面の「つるつる」「ざらざら」という感覚の凹凸を定量的に測定し、粗さパラメータ（JIS規格やISO規格）で評価する測定機です。

計測機器

当社は、半世紀以上も前から「測れないものはつくれない」という考えを基本に、精密測定機器を製造しています。

私たちが毎日使うさまざまな製品は、全てその設計·製造·検査などの段階で「計測」されることにより、安全性·安定性·環境性·デザイン性など細部にわたるまでチェックされています。例えば自動車の主要部には、摺動面や高い機密性を必要とする部品が多く使われており、これらの部品を精密に測定して製造することで振動を抑えたり、効率な燃焼を促進したり、快適な乗り心地や美しいボディを可能にしているのです。

当社の礎である計測製品は社会の礎でもあります。東京精密は、これからもより高精度な精密測定機器を提供し続けていくことで、安全·便利でありながらも地球環境への負担をできるだけ軽減する「新しいものづくり」を支えていきます。

ガバナンス

東京精密は、企業としての社会的責任を重要課題とし、透明性の高い経営システムの構築・運営に努めています。

統治体制

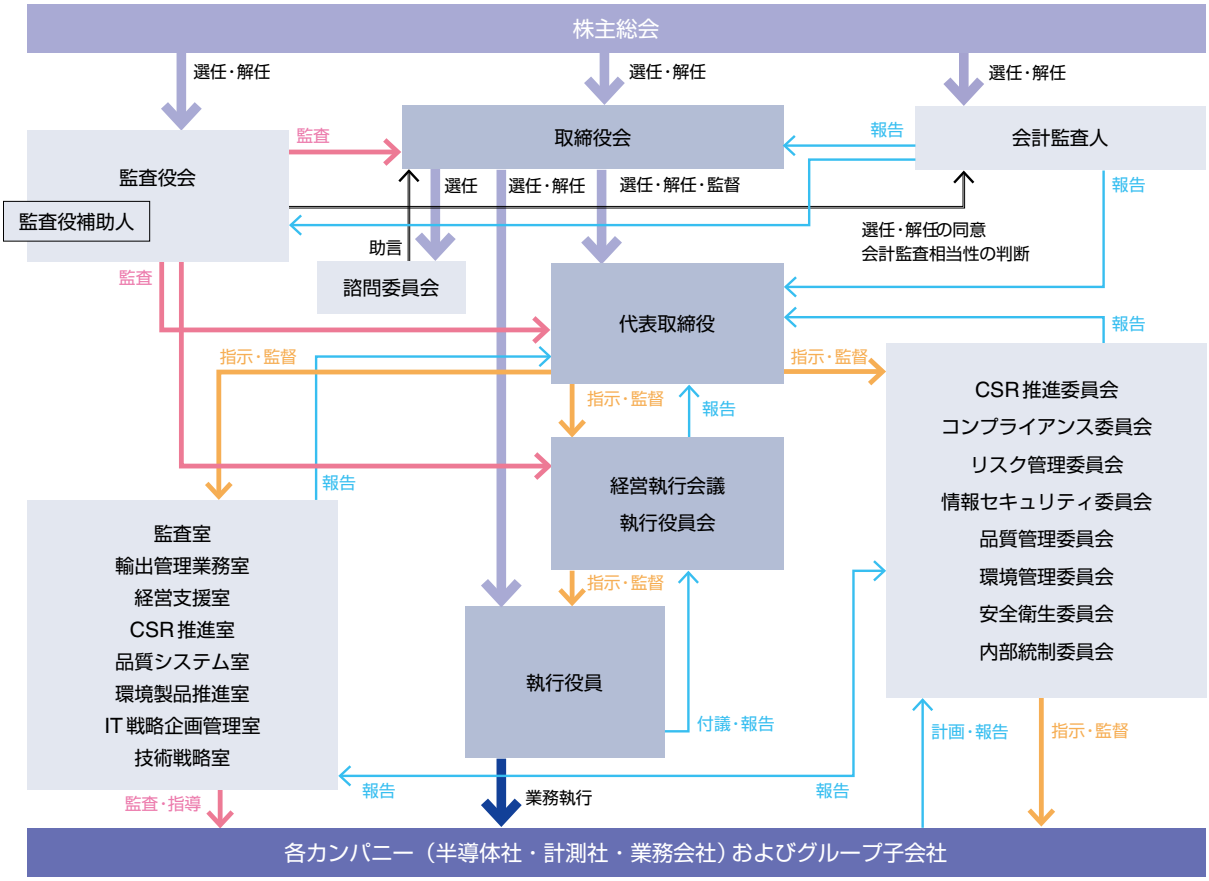
■ コーポレートガバナンス体制

東京精密は、社会に対する企業価値を高め持続的な発展を続けるために、経営環境の変化に対応できる体制の構築と、国際標準化や株主重視経営に適合した透明性の高い経営を目指しています。また、株主の権利の保護と平等な扱いに留意するとともに、お客様、取引先、従業員、社会など全てのステークホルダとの円滑な関係の構築にも努めます。

今後とも取締役会と監査役会および執行委員制による社内カンパニー制がそれぞれの権限と機能を発揮し、適切な情報開示と透明性確保をはかり、コーポレートガバナンスの実効性確保に注力してまいります（詳細は東京証券取引所のホームページにて開示しております）。

基本方針

- 取締役会が実効性のある内部統制システムの構築と法令・定款および社内規則遵守の体制の確立に努め、監査役会が内部統制システムの有効性と機能を監査します。
- 監査役の職務を補助する体制や、監査が実効的に行われることを確保する体制を構築します。
- 当社グループは、反社会勢力と一切関係を持ちません。
  反社会勢力に対しては、警察や弁護士などしかるべき機関と連携し、組織的に対処します。



■ コンプライアンス管理体制

コンプライアンス関係の法令等は、それぞれ下記主管部署にて管理を担当しています。

経営開示財務報告関連	総務室 監査室 経理室 経営支援部門
従業員関連	人事室 人事相談室 八王子工場・土浦工場
取引先顧客社会関連	輸出管理業務室 経営支援室 八王子工場・土浦工場 CE部 営業部門 広報室 人事室 総務室 CSR推進室 法務・知的財産室

■ 適切な情報管理

昨今の企業活動に関わる重要な課題として、情報資産の流失による信頼の喪失、技術流失による付加価値の喪失等を防ぐ取り組みの強化が挙げられます。

当社グループ会社は、お客様をはじめとする各ステークホルダーからの信頼を企業活動の重要課題のひとつと位置づけ、保有する情報を適切に管理するための「情報セキュリティポリシー」を定めています。これは当社の情報資産を改竄、破壊、複写および漏洩等から保護する為の管理策を明文化したもので、当社の情報資産を利用する者は情報資産の重要性を認識し、遵守する義務を負います。

当社役職員およびすべての関係者は、不断の努力をもって情報資産を保全しなければならないという考えに則り、顧客情報の管理強化を推進するための教育や入社時の情報セキュリティ教育、管理職研修を利用した情報セキュリティ教育などを実施しています。

■ 安全保障輸出管理プログラム

当社は、国際的な平和及び安全の維持を目的とする安全保障輸出管理を適切に実施する為に「安全保障輸出管理プログラム」を制定し、製品や部品などの輸出に関わる法令順守の徹底を当社グループの重要課題のひとつとしています。外国為替および外国貿易法をはじめとする輸出関連法規の最新情報を入手し、輸出などの業務に従事する役員・従業員に周知するとともに、該非判定や取引審査など、社内規定による輸出管理プロセスの遵守を求めてます。また、輸出入の管理業務や、海外に赴任する従業員への貿易実務の教育にも力を入れています。

当社は2009年3月、東京税関に、セキュリティ管理とコンプライアンスに優れた輸出者として、AEO（認定事業者）制度に基づく「特定輸出者」の承認を受けています。

コンプライアンス

■ 内部通報制度

東京精密グループ内において、コンプライアンスに触れる恐れのある事象を社員が知った場合、通常は職制ラインでの報告・相談・問題解決を原則としていますが、当該事象に職制ラインが関係するなどの理由で、ラインを通じた報告に不都合がある場合に、ラインとは別にコンプライアンス相談窓口を設けています。相談窓口では、通報者の不利益にならぬように、通報者の匿名確保・プライバシー保護に努め、通報者の権利保護を保障しています。また、社外の弁護士にも窓口を設け、より相談しやすい環境としています。
現在までに、この制度を利用した相談が何件かありますが、その内容に関しては、ほとんどが管理者と部下とのコミュニケーション不足からくるものがほとんどで、都度適切な言葉使いやコミュニケーションがとれるような指導により再発防止に努めています。
今後も問題の早期発見・対応によりコンプライアンス意識の徹底・推進を図っていきたいと考えています。

■ コンプライアンスに関する取り組み

東京精密グループのコンプライアンスに関する取り組みの中心組織として、代表取締役社長に直結する委員会「コンプライアンス委員会」を設置しています。
コンプライアンス委員会のメンバーは、代表取締役を含む取締役・執行役員を中心に、生産・技術担当役員、人事担当役員・グループ会社の社長等で構成され、企業倫理・行動指針の制定や、コンプライアンスの教育・研修・活動状況等の確認を行っております。
東京精密グループでは、法令・社内規則等の遵守、人権の尊重、公正誠実な事業活動、倫理的行動など、当社グループ役員従業員ひとりひとりが遵守すべき「ACCRETECHグループ行動規範」を制定し、その周知徹底と遵守の推進を図っています。
内部監査を常時行うなどコーポレートガバナンスを充実、コンプライアンスおよびリスクマネジメント活動を推進したことにより、2014年度は製品の品質・環境に対する取組・財務報告の適正さなど、外部機関による評価で不正行為や法令違反等事業活動に影響を与える問題はありませんでした。

■コンプライアンス教育

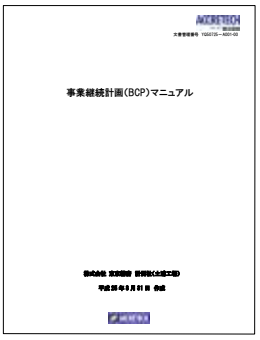
コンプライアンス推進には、守るべき法令・ルール、守らなければならないという意識を、すべての社員に周知徹底することが要となります。
東京精密は、社員のコンプライアンス意識の向上、および継続的に社員の意識を高いレベルに維持するために様々な教育の機会を設け、入社してすぐの「新入社員研修」、ベテランとなったマネージャーに対する「管理職研修」など、各階層に応じたテーマを共有しています。
また、現場での安全・衛生研修の一環で関係法令遵守教育や品質・環境マネジメントに関しての法令遵守の徹底に務めており、サプライヤーとの関係に於いても下請取引など問題が起こらないよう、関連部署での勉強会も行っています。

■ リスク管理体制

東京精密は、業務執行にかかわるリスクの把握と管理を目的として「リスク管理規定」を定めるとともに、社長を責任者とする「リスク管理委員会」を設置し、「事業継続計画（BCP）」を策定しています。
リスクが発生したときは、必要に応じ、直ちに社長を本部長とする「リスク対策本部」を設置し、リスクへの対応と速やかな収拾のための活動を行います。

■ BCP（事業継続計画）

自然災害や事故等が発生した際、人命は第一として、お取引様への製品供給やサービスをいち早く復旧させる必要があります。当社は2011年に発生した東日本大震災の発生を受け、事業継続計画を見直しました。
特に地震対応については、事前の対策として建物の耐震強度の確認をするとともに、拠点の整備や日常の安全確保·教育·訓練といった災害予防および減災への準備を実施しています。また、被災時の速やかな情報確保や社内外への対応、特にサプライヤーやお客様の現状分析・対応することをも含め、マニュアルを整備しています。



基本方針

- 従業員とその家族の安否確認·安全確保、および地域における人命保護·救助・復興活動を最優先する。
- 業務の継続および復旧については、被災した顧客向けサービスおよび事業継続の中核となる事業を優先させる。
- 大規模な災害等により甚大な被害を受けた場合においても、1週間以内に優先事業の製品の一部提供および被災顧客向けサービスを再開できるようにする。

■ 情報セキュリティ

経営のグローバル化・情報化の進展に伴い、知的財産（特許・営業秘密等）の情報管理の重要性が増し、企業の体制整備と管理強化が求められています。当社は、2004年に取締役会が選任する委員長を最高責任者とする「情報セキュリティ委員会」を設置しました。
「委員会」は、

1. 秘密情報の定義・対象範囲
2. 秘密とする情報の管理区分
3. 秘密情報の管理
4. 他者（社）情報の混入防止

などについて、具体的な方針や手続きを定めた「秘密情報管理方針」を定め、その実行を指導・監督することにより、知的財産権取得・管理、営業秘密管理、技術流出防止に注力しています。

地球環境にやさしい技術で貢献するグローバル企業

製品の信頼性、安全性、環境への配慮、すべてにおいての顧客満足度No.1を目指して。

品質

■ 品質保証システム

納入製品に対するお客様からのフィードバック情報は、カスタマー・サポートを経て「サービス報告書」、「納入立会い議事録」または「作業報告書」にまとめ、関連部署長に報告しています。また、クレームなどの苦情は、「苦情処理連絡票」によって品質保証部長に報告され、適切な対応を行います。また、これらはQC会議、製品別プロジェクト会議などに報告され、製品品質にフィードバックしています。

■ CS

私たちは製品をお使いいただいているお客様に対し、定期的に顧客満足度アンケート調査を実施しています。
お客様の生の声を調査確認し、その声を製品及びセールス、サービス業務に反映し顧客満足度の更なる向上を図ることが目的です。
製品性能、品質、サポート、セールス、コスト等に関する質問に評価採点をいただき、製品ごとに集計しています。
項目毎にお客様のご意見を頂戴し、可能な項目については即改善を実行しています。
評価点の低い項目は、各担当部署にて具体的な改善目標を設定し、PDCAを廻して改善に取り組みます。
お客様の新鮮な声、要求の変化にお答えできるようこの取組の強化を進めており、評価点数、及びアンケート回答数・回収率は、毎年改善されています。

製品含有化学物質の管理

■ 環境配慮型製品への取り組み

当社グループは、東京精密技術標準（TES）を基準として製品開発を進めています。製品の欠陥により顧客の身体的、物質的安全を損なうことを防止し、社会の持続可能な発展への貢献、地球環境に配慮した事業活動を行っています。高精度・高品質を第一に、環境保全という視点で製品開発に取り組み開発・設計部門、購買部門、生産・製造部門、出荷部門といった直接部門だけでなく、企画・営業部門、管理部門、サービス部門など間接部門も一体となった品質改善活動を継続することで、お客さまのニーズにあった高品質なものづくりを推進しています。

TESの構成

1. 一般標準
   東京精密ガイドラインの運用に関する標準を総括的に定める。
2. 製品標準
   製品の欠陥により顧客の身体的、物質的安全を損なうことを防止し、広く社会に信頼される製品を供給するための手順を規定する。
3. 管理標準
   環境マネジメントシステムの運用にあたって、各職場およびサイトの事業活動、製品サービスにおいて、環境にどのように関わっているのかを把握し、環境方針をふまえて環境目的、環境目標を設定する。
4. 設計標準
   市場に供給する製品が、生命、人体、財産に対し安全であるために、設計にあたって遵守しなければならない事項について定める。
5. 設備標準
   製品が要求品質を満たしていることを実証するために、当社の使用する設備機械の精度・機能を維持する目的で定める。
6. 作業標準
   当社の製品・部品の製造工程における品質に影響する作業に対し、資格認定制度を導入することにより、品質の確保と作業者の技術向上を目的とする。

■ 製品含有化学物質の管理

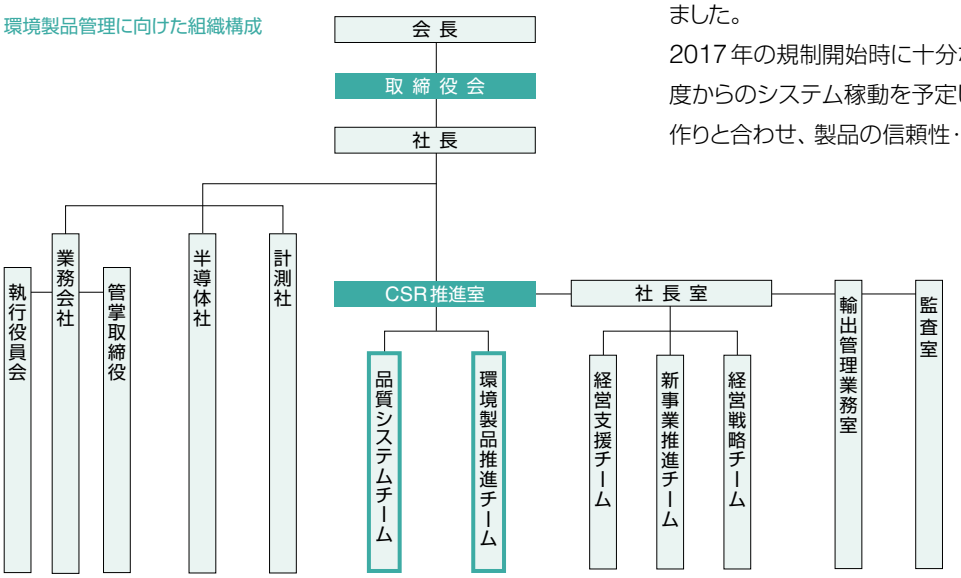
近年、欧州を中心にRoHS指令やREACH規則への対応が求められるなど、環境に関わる要求は年々大きくなっています。東京精密は環境方針に“環境に配慮した製品設計”を掲げ、全社をあげて、省エネ・省資材対策及び有害物質の不使用に取り組んでおります。

当社製品でLSSIT（大型産業据付工具）に属する半導体製造装置は、現在はRoHS指令の適用除外製品に該当しますが、全製品に対して対応を進めることとし、2013年度はじめに社長直轄の環境製品推進室を設立し、製品含有化学物質を把握する全社的な活動を開始しました。

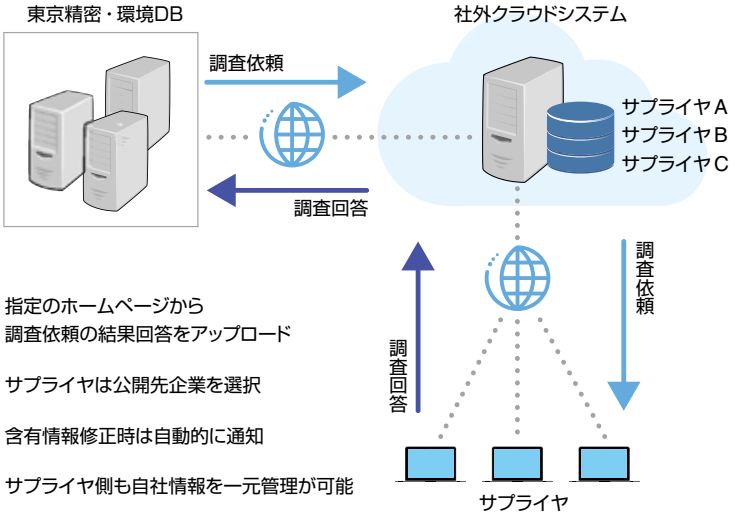
これらの管理を確実に実施するためには取引先様のご協力も不可欠です。製品含有化学物質管理システムの構築を進め、既存の設計・開発システムと発注システムの連携をとり、新たな化学物質管理システムによる総合的な管理システムを実現しました。

2017年の規制開始時に十分な対応を実現するため、2016年度からのシステム稼動を予定しています。環境にやさしい製品作りと合わせ、製品の信頼性・安全性を益々高めてまいります。

環境製品管理に向けた組織構成



管理データベースのシステム構成



エコプロダクツ

■ エコプロダクトの充実

ウェーハダイシングマシン
AD3000T

エア削減

446 L/min ▶198 L/min

従来モデルより60%エア削減。

マシン待機中の、VACとドライエア消費量を削減しました。

ウェーハダイシングマシン
AD2000T

エア削減

309 L/min ▶198 L/min

従来モデルより36%エア削減。

マシン待機中の、VACとドライエア消費量を削減しました。

ウェーハダイシングマシン
AD20T

エア削減

50 L/min ▶5 L/min

ワークVACを大幅に削減。

装置運用の中で最もエア消費量の多いワークVACに着目。機密性を向上させたVAC配管内の圧力が一定レベル以下となった場合のみ真空生成することで、エア消費量を大幅に低減しました。

ウェーハダイシングマシン
SS series

エア削減

298 L/min ▶110 L/min

従来モデルより60%エア削減。

マシン待機中の、VACとドライエア消費量を削減しました。

ポリッシュ・グラインダ
PG3000RM

水削減

13 L/min ▶4 L/min

研削加工時の水使用量を削減。

研削加工時の水使用量を大幅に削減しました。研削軸は2軸あるので、稼働中に9 L/min×2軸＝18 L/minの削減を実現しています。

真円度・円筒形状測定機
RONDCOM 73

材料削減

3,000 kg ▶1,500 kg

従来比50%の材料削減を実現。

真円度測定機において、測定範囲を拡大しながらも装置は小型軽量化に取組み、材料を従来の3,000 kgから1,500 kgと50%の材料削減を実現しました。

社員がいきいきと働ける企業

社員一人ひとりの能力を最大限に発揮できる職場環境の充実を図り、いきいきした人材育成を推進してまいります。

従業員とのかかわり

■ 雇用政策

東京精密グループは人種、宗教、出身国、性別、障害などの要素に基づく差別は行いません。積極的に女性雇用を促進し、グローバル化に対応します。また、職場での性的な誘いかけ、行為あるいは発言、人種または宗教に関する中傷、その他健全な職場環境の侵害、または人格を無視するような発言や行為を禁止し、健康的で安全な職場環境を維持するよう努めております。

■ 積極的な女性の雇用

女性が活躍できる場を積極的に与え、女性の専門職採用の拡大を図ります。

■ 外国人の採用（グローバル化）

外国人の採用は、国内及び海外でも積極的に行います。また、新卒・既卒を含め、自ら異文化に飛び込んで吸収する日本人の採用に努めます。

■ 障がい者雇用

当グループは、ハンディキャップを持った従業員が様々な業務に携わっており、積極的に障がい者雇用の拡大に取組むとともに、安心して働ける環境づくりに努めています。また、他社と比べ、知的障がい者の割合が高く勤続年数も長いことが特長です。

■ 中途採用

中途採用では、いろいろなバックボーンを持った人も受け入れています。プロパーだけでなく中途採用者の中からでも、幹部として採用されています。

■ 人的能力開発

当社グループでは、人材教育の強化及び組織能力の向上を目的として、新入社員研修をはじめ、段階的な昇進の際に社内教育を行っています。
基本的には日頃の職場での自己啓発をすすめ、立場が変わればミッションや見方も変わることへの自発的な気付きを促しています。

東京精密が求める人物要件

リーダーシップ	→	マネージメント能力
コミュニケーション能力	→	表現力、対人興味、論理性、情報収集力
まじめさ・素直さ	→	誠実性・責任感・内的帰属
自律・自立	→	実行力
勉強・研究熱心さ	→	探究心・創造欲求
場をみるチカラ	→	思考柔軟性・行動柔軟性
個人属性（学校・学部・学科・専攻）	→	知識・スキル・スペック
就職観、希望職種	→	志望度

従業員とのかかわり

■ 労働安全衛生

職場において、仕事のパフォーマンスを上げるため、
より快適な環境美化に取組んでいます。

● 事故報告

期間中、環境に影響を与える事故・違反また、訴訟などはありませんでした。

● 緊急事態想定訓練

事故防止のため、毎年緊急事態想定訓練を定期的に実施しています。

緊急事態想定訓練実績

【半導体社】

2014年4月　**屋外排水処理施設塩酸希釈槽溢水事故があった場合の処理訓練**
防液堤内希塩酸流出時処理方法と周辺従業員の安全対策
〔総務課：参加者6名〕

5月　**危険物の漏洩処理訓練**
工場内フロアにて油の漏洩があった場合の対応と処置
〔製造1課：参加者28名〕

6月　**危険物流出時訓練**
有機溶剤使用時に流出した場合の処置方法訓練
〔製造2課：参加者26名〕

6月　**屋外排水処理施設より硫酸流出事故の訓練**
硫酸流出時の処理方法の確認と周辺従業員の安全対策の確認
〔ブレード製造部：参加者6名〕

11月　**地震発生を想定した避難訓練**
地震発生を想定し緊急放送にて避難開始、自衛消火隊による放水演習、消防署員による消火器の取り扱い指導
〔八王子工場 自衛消防隊、第4、10分隊 参加者145名〕

2015年3月　**スラリー TS200Lの流出時の対応訓練**
毒物・劇物の含有成分製品に対する有事の場合の訓練
〔CE部：参加者4名〕

【計測社】

2014年7月　**ケミカル洗浄剤飛散時想定訓練**
従事者全員参加で実施
〔参加者：78名〕

7月　**自衛消火隊による消火放水訓練**
有事の際の初期消火を迅速に行う訓練を実施
〔消火隊員：6名〕
毎月、基本動作訓練は欠かさず行っております。

12月　**本館2F 製造部Surfcomチーム組立室からの火災発生を想定した避難訓練**
混乱も無く避難ルール通りに実施
〔全部署参加（TSS含む）：260名〕

2015年3月　**自衛消火隊による消火器訓練**
本館2Fの職場（Surfcomチーム）の従業員を対象に消火器訓練を実施
〔参加者：35名〕

● 健康診断

毎年受診の健康診断では、若年層も成人病検診の対象とし、管理職は人間ドック受診としています。その他に、従業員が健康に働ける環境にする為の窓口として、「人事相談室」を設けています。これらは産業医とも連携しながら、職場環境の改善に取組んでいます。

● 福利厚生

従業員に対しては、長期休暇制度やリフレッシュ休暇制度があります。また、2014年6月より、幅広いジャンルで全国規模のサービスを展開している福利厚生パッケージ「ベネフィット・ステーション」に加入しました。

● 休業制度

育児休業制度、介護休業制度、育児短縮勤務制度を設け、従業員のライフスタイルに応じた職場環境づくりに努めています。また、長期治療の際の休業補償制度も手厚く設定しています。病気や怪我による欠勤やリハビリについても、最大で2年半の休業補償を設けて支援しています。育児については、国の補償に加えて当社独自の育児制度を設けることで、社員の子育てを支援しています。

■ 防災への取組

各工場では、地震などの自然災害・火災・事故などに備え、定期的に全体での防災訓練を行っております。法令に沿って防災組織が編成されており、定期防災訓練時には、工場内でエリア毎に組織されているそれぞれの分隊が、通報・伝令・誘導・消火・救護・搬出などの各種係りを担当し、想定する災害への対応訓練を実施しております。

特に自衛消防隊は、有事に備えて消火訓練やけが人の救護訓練などの実践訓練を日々行い、毎年地域の消防署が主催する「自衛消防訓練審査会」に参加し、火災発生を想定して迅速性や確実性を競って模擬演技を披露しています。日頃の成果を存分に発揮し、毎年上位の成績を収めています。

これらも取組により、防災への意識が高まっております。

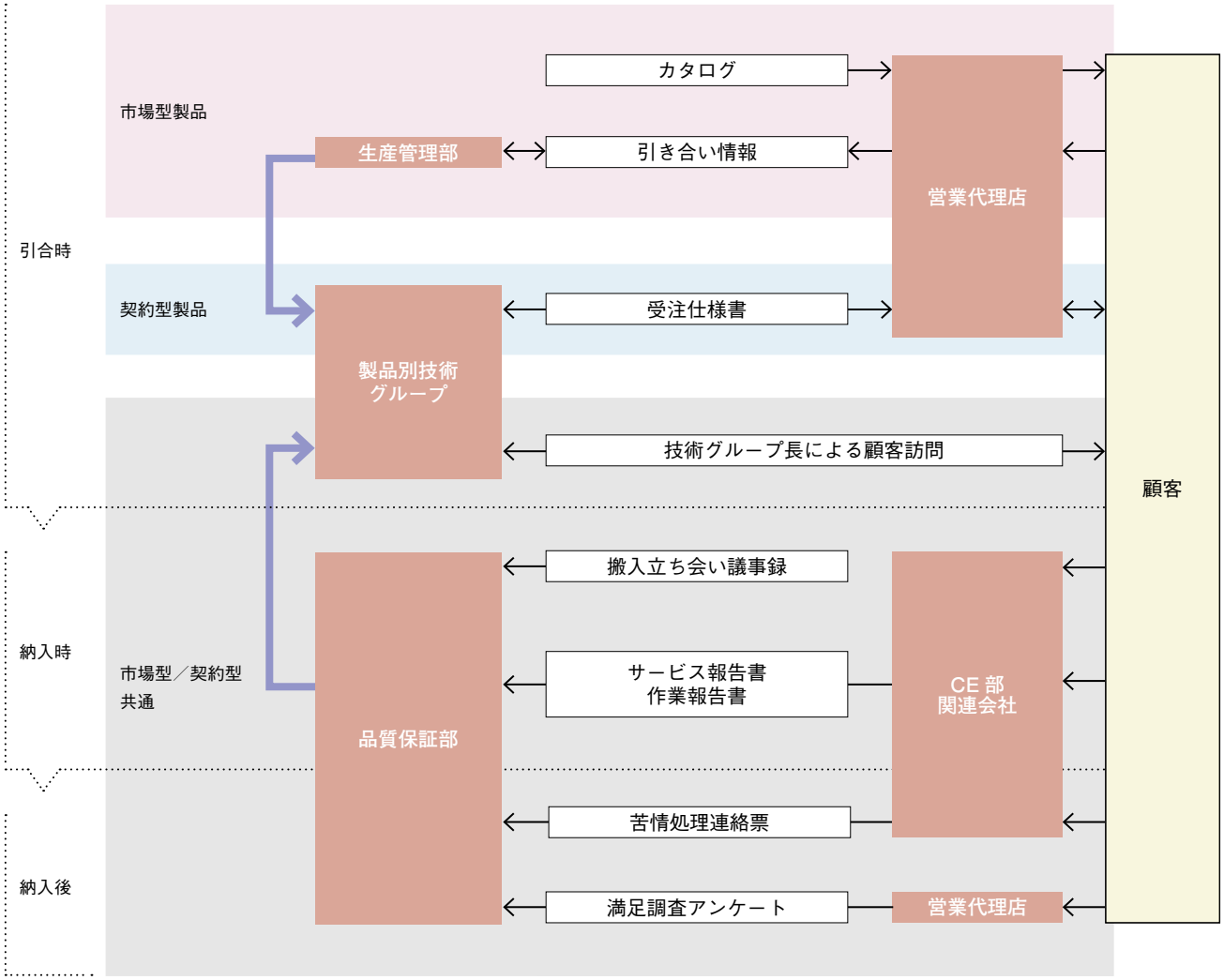
夢のある未来へ

最先端技術を駆使した半導体製造装置・計測機器の供給と充実したサポートで、夢のある社会の発展に貢献します。

お客様とのかかわり

■ グローバルで高機能なサポート体制

東京精密グループは1949年の創業から今日に至るまで、「お客様の満足」を基本理念とし、グローバル化、環境問題への対応、ITの進展など速く大きな環境変化に迅速に対応しながら、お客様の生産性向上に寄与する製品の開発に勤しんでいます。「顧客満足度No.1」を目標とするカスタマー・サポートは、お客様により良い状態でより長く製品をお使いいただくため、必要な時に、必要な物（人）を、必要な場所に最短でお届けすることに注力しています。世界各国31ヵ所、日本国内25ヵ所のサポート拠点に、総勢約270名のカスタマー・サポート・エンジニアを配置。また、世界各国10ヵ所にパーツセンターを設置しています。



株主・投資家とのかかわり

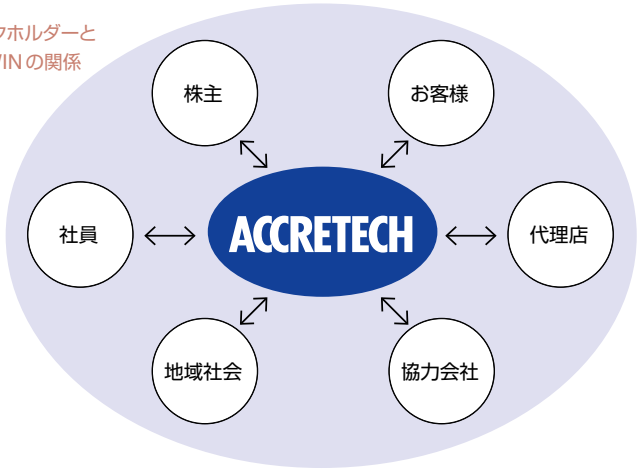
■ 株主・投資家の皆様とのかかわり

東京精密グループは株主・投資家の皆様へ、業績・財務内容・経営戦略など最新の情報を正確に、分かりやすく、タイムリーにお伝えすることにより、企業の透明性向上に努め長期的な信頼関係を築いていけるよう努めています。

株主・投資家の皆様には、四半期ごとに当社ホームページや東京証券取引所の適時開示情報に決算情報を公開し、年2回“株主通信”をお届けして東京精密グループの業績や話題・新製品情報をお伝えしています。

機関投資家・証券アナリストの皆様には、社長自らが説明を行う決算説明会を年２回開催しているほか、社長およびIR担当役員が積極的に個別訪問や取材対応を行っています。

ステークホルダーと
WIN-WINの関係



株主様とは年１回ではありますが、株主総会では社長が決算説明をするほか株主様のご意見を幅広く頂戴し、株主の皆様とコミュニケーションをとり、東京精密グループを深くご理解いただけているものと信じています。

■ 株主総会

東京精密では、毎年６月に本社のある東京都八王子市内の京王プラザホテル八王子で定時株主総会を開催しており、多くの株主様においでいただいています。社長が議長となり、スクリーンによる決算業績説明のほか、今後の業績見通し、マーケットの状況や東京精密グループの経営戦略等を社長自らご説明し、また株主様からも貴重な多くのご意見やご質問を頂戴しています。株主様と社長その他経営陣とが直接コミュニケーションをとり、株主の皆様に東京精密グループを深くご理解いただいております。

■ 決算説明会

機関投資家・証券アナリストの皆様には、社長自らが説明を行う決算説明会を年２回、当社決算発表日の当日に開催しています。決算業績のほか、今後の業績見通し、マーケットの状況等の説明を行っています。四半期ごとの当社決算発表日後は数週間にわたり、社長およびIR担当役員が積極的に機関投資家・証券アナリストを個別に訪問したり、個別の取材対応を行っています。また、遠方の機関投資家・証券アナリストに対してはテレビ会議システムを通じて国内外の投資家に向けた幅広いIR活動を行っています。

公共政策／行政機関とのかかわり

■ 公共政策／行政機関などとの関係

当社は、「日本半導体製造装置協会」や「日本精密測定機器工業会」の各種団体に所属しており、これらの団体が開催する委員会や分科会などに参加して、成長に向けた政策提言などに取り組んでいます。

地域とのかかわり

■ 道路アドプト制度の受入（八王子工場）

八王子工場では八王子市道路アドプト制度※の受入を、2004年1月に八王子市との間で契約しました。
東京精密をはじめとする近隣企業の従業員および一般の方が利用するJR北八王子駅東側ロータリーのアドプトとなり、日常のゴミ拾いに加え、植栽の手入れなど定期清掃により美観の維持に努めています。定期清掃は昼休みや、夏季は気温の下がる夕方に、20名程度で植え込みの草取り、植え込みの剪定を行っています。

※道路アドプト制度
日常生活の中でできる市民活動として、身近な道路で管理者（市）と協議して、清掃や植栽帯の刈り込み・除草などを行う制度で、美化意識の向上と地域コミュニティの活性化を図ることを目的としています。

■ 地域での美化活動の実施（土浦工場）

土浦工場に隣接する中貫公園は、春の桜や秋の紅葉など、四季折々に楽しませてくれます。しかし、周囲道路はゴミが溢れ、工場を訪れる方に目障りとなっていました。
これまで公園周辺の各社で月1回共同清掃作業を行ってきましたが、溢れるゴミに追いつきません。そこで公園の恩恵を一番受けているのは当社であるという意識から、2006年より総務室と各部署が毎週月曜（月1回の清掃は除く）清掃活動を行うことにしました。
以前に比べると格段に綺麗になってきましたが、今後も引き続き清掃活動を行っていきます。クリーンな公園を保ち、社会マナー向上の一助になればと考えています。

松岡 達哉
半導体社
PSG

“誰かがきれいにしてくれる” 私は、そんな意識で公共の場を利用してきましたが、入社してからアドプト活動を経験し、“気持ちの良い環境は自分たちで作るもの”だと考え方は180度変わりました。
私は、一度やり始めたら徹底的にやらないと気が済まない性格なので、真夏で体力は削られていく中、掃除が終了するととてもやりきった気分で清々しい気持ちになります。
また、伸びきった草や、地面に捨てられている多くのゴミを多くの社員さんたちが協力し合って楽しく掃除をすることは、普段かかわらない部署の方との交流ができるのも良い点だと思いました。
自分たちの気持ちの良い環境作りをすることで、社会貢献につながる道路アドプト制度は素敵な活動だと思います。これからも機会があるごとにアドプト活動に参加したいと思います。

島田 玲
計測社
技術部門
OMIグループ

普段会社から眺める中貫公園は、緑豊かで美しい印象ですが、実際清掃活動を行ってみると、意外とゴミが多いことに気づかされました。特にタバコの吸殻が数多くあり、ポイ捨てが常態化しているように思われました。今回のような清掃活動の継続で、美しい環境を保ちつつ、何とかして「ポイ捨てが生まれない公園」を実現できないか、と考えさせられました。また、公園の中は安らげる環境であるのに対し、外周の道路は道幅の割に大型車が頻繁に行き来し、歩行者にとって危険ではないか、との印象も持ちました。今回の清掃活動を通して、地域をより良くしていくための「気付き」を得られ、非常に有意義な時間だったと思います。

八王子道路アドプト活動

■ インターンシップ

全国の学生の皆さんに向け、「企業の特徴」と「必要とされる人材」、「自分たちはどう成長すべきか」を意識していただくことを目的としたインターンシップを実施しています。
参加者には八王子工場の半導体、土浦の計測機器の製造現場を見学していただき、“ものづくり”を体験しながら『半導体と計測機器による豊かな未来』を体感・想像できる各コースを用意しています。
初めは「半導体ってなんだろう」「計測機器ってなんだろう」と感じていた参加者たちも、実際のものづくりの現場を体験することで、事業の役割と可能性を知るきっかけとなると、好評です。
東京精密が担う社会的役割を理解し、「求められる人材」として高い志を継ぐ若者を育んでいます。

インターンシップコース一覧

- ものづくりビジネスを体験する1 dayコース
- 加工用レーザー光学実験 1 weekコース(理系対象)
- 半導体製造装置組立て体験 1 weekコース(理系対象)

■ 土浦工場の安全管理が表彰される

当社の土浦工場が、土浦市危険物安全協会50周年記念式典にて表彰を受けました。これは、危険物に起因する災害防止と安全管理に協力し、同協会の発展に貢献したものとしていただいたものです。これを機により一層安全な工場と地域社会をつくっていくために、これからも引き続き活動を進めてまいります。

表彰状

株式会社東京精密 土浦工場殿

貴事業所は土浦市危険物安全協会
入会以来十年以上の永きにわたり
本会会員として危険物に起因する災害
防止安全管理に尽力し当協会の発
展に多大なる貢献をされました
ここに設立五十周年を迎えるにあたり
その功労を表彰します

平成三十年十月二十二日
土浦市危険物安全協会
会長 宇田川芳雄

■ ボランティア活動　～エコキャップ～

2007年度よりペットボトルのキャップを回収し、NPO法人エコキャップ推進ネットワークを経由して、世界の子供たちにワクチンを寄付しています。キャップ800個相当で1人分のポリオワクチンを手配できます。さらに、同量をリサイクルすることで、7.3 gのCO_2の抑制となります。微力ながら社員も世界の子供たちを救えるという意識で、運動に参加しています。

エコキャップ
受領書
http://www.ecocap.or.jp

地域とのかかわり

■ 八王子第５工場に太陽光発電設備を導入

八王子工場では、2015年度第５工場に再生可能エネルギーである太陽光発電設備を導入しました。電力需要を抑制する上で、東京精密ができることの第一歩として、再生可能エネルギーによる電力の安定供給を試み、環境負荷の低減、経済成長に貢献します。

この設備は、232 kwhの発電能力を持ち、年間で21万kwh以上の発電が可能です。この発電で、地球温暖化の要因となるCO_2（二酸化炭素）排出量を102 t-CO_2以上を削減します。（年間推定発電量kwh x 0.489 t-CO_2/千kwh 2015年度係数として計算）発電した電力は八王子サイトの事業活動で使用します。サイト全体の電力使用量の1.5%を太陽光発電設備で賄い、需要の多い昼間時間帯の電力使用量削減にも貢献します。今後現在建設中の第６工場にも設置を検討し、八王子サイトの電力使用量抑制を進めていきます。

■ 責任ある調達

東京精密グループは、価値の高いものづくりを目指しており、製品を構成する全ての材料、部品の機能が発揮され、高品質を追求することを基盤としています。ものづくりにおいてグローバルで共に成長し続けるために、取引先さまとのコミュニケーションを大切にし、継続した信頼関係を築いております。

● 紛争鉱物

東京精密グループでは、人権侵害、労働問題などの根源になっている紛争鉱物を使用した原材料およびこれらを含有する部材・部品などは、武装集団の資金源となりうるものとして、すべて排除していく方針です。

● グリーン調達について

部品、加工・組立の調達においては、環境に配慮した活動をしているサプライヤーから、環境負荷の少ない部材を優先的に調達することにより、環境保全を図っています。

環境負荷の少ない部材の調達

次の事項についての取り組みをサプライヤーに求めています。

1. 環境関連法規の遵守
2. 化学物質の管理
3. 有害物質の調達品への含有禁止、または使用の削減
4. 省資源への配慮
5. 省エネルギーへの配慮
6. 包装・梱包への配慮
7. 廃棄物の削減・再資源化への配慮

■ 事業推進により第６工場を建設中

ウェーハの大口径化などの影響や、単体装置からシステム装置となることで半導体製造装置も大型化する傾向が強く、将来的な製造スペースを確保することを目的として第６工場を建設することとなりました。

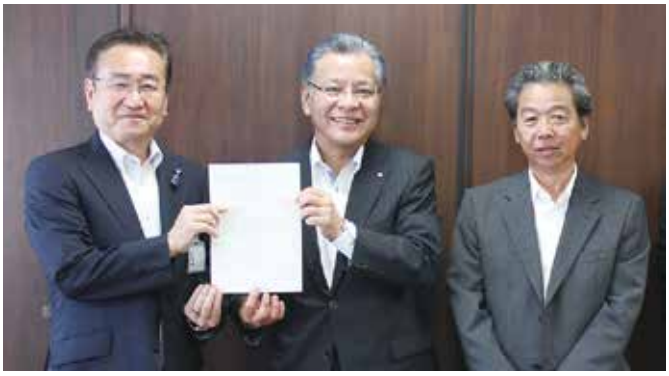
大きさは敷地面積約5,000 m²、総床面積約20,000 m²の地上５階建て鉄骨構造の建物です。

八王子地区ではアクトタワーに次ぐ高さの建物であることから、大地震による影響を考慮して２～５階は制震構造を採用、震度６の地震でも振れを約20%低減させる構造となっています。

各フロアは１階・４階・５階は製造エリア、２・３階は技術部門フロアとなっています。２・３階の技術フロアは打合せリフレッシュコーナー、屋外リフレッシュなどを設置、快適な仕事環境となっています。近接する第３工場とは１階・２階に外に出ることなく渡り廊下で行き来が可能となっています。２階には車椅子の方も使用できるトイレを設置し、障がいのある方にも仕事しやすい環境を整えています。

環境配慮としては、空調の屋上室外機には散水装置を設置、冷房による夏季電力を抑制するシステムを導入、もちろん構内の照明はすべてLED化されていて省エネ化となっています。

６工場完成と同時に都条例に合わせた八王子工場全体の緑地化も完成する予定です。



八王子市企業立地支援条例に基づく指定事業者指定式が行われ、八王子市の石森市長から吉田社長へ指定通知書が授与されました。

完成予想パース

物流の環境配慮

■ 容器リサイクル

● 3重ダンボールの容器による海外輸送システム

1988年より、海外へ輸送する製品向けに大型重量物用リサイクル容器（3重ダンボール製）を採用しています。リサイクル容器採用前は木箱による梱包だったため、輸送先で処分していました。リサイクル容器による輸送システム導入後は80%という高効率なリサイクル率を達成しました。この3重ダンボール製リサイクル容器の購入量も徐々に増加してきており、適用可能製品のほぼ100%に適用になりました。

● 帯電防止用フィルムの使用

発送部門では、梱包時に使用しているエアキャップを減らし、帯電防止用フィルムの採用を進めております。従来、一度使用されたエアキャップは廃棄業者に引き取られ処理されていましたが、帯電防止フィルムを採用することで、再利用を行いリサイクル率をさらに上げ、二酸化炭素（CO_2）などの温暖化効果ガスの発生を抑えることで、温暖化防止対策の一環として寄与します。

● 納品梱包材の削減、通い箱の採用

部品やパーツなどの納入業務には、取引先との専用通い箱を使用し、無梱包化や廃棄ダンボールの削減も推進しています。従来、一度使用されたダンボール等は、廃棄業者にて引き取られ処理されていましたが、通い箱を採用することで、ダンボール廃棄量を削減できました。取引先のご協力・ご理解をいただきながら、納入業務由来の廃材削減に努めております。

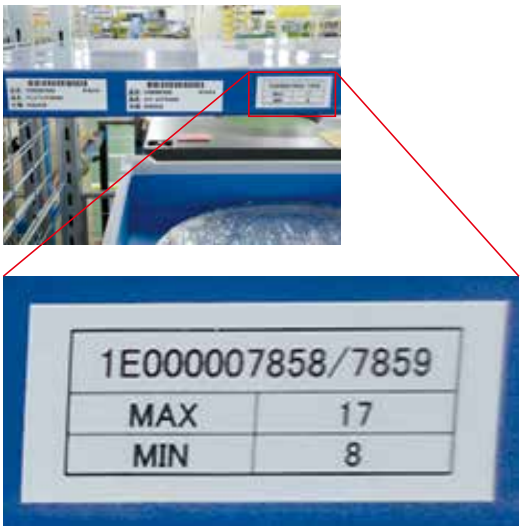
荷姿改善前

荷姿改善後

■ MRP化

完成品レベルの生産計画に基づいてその生産に必要な資材の正味所要量を定め、品目、納期と併せて生産計画を作り、これを基準にして資材の手配、納入、出庫の計画管理を行なっています。
保管棚には所要量のMIN／MAX表示を行い適正管理を行なっています。

MIN／MAX表示



■ 計画運行および低燃費運転教育による環境負荷低減

無駄な走行による燃料使用や排気ガスの排出を抑えるため、製品納入時に使用したトラックが空荷で帰路につかぬよう計画的運行を実施しています。また、自動車使用抑制のため、できるだけ公共交通機関を利用することや複数の従業員が出張で自動車を利用する場合は1台の自動車に乗り合いすることなどを心がけています。
また、従業員や輸送業者に対して、アイドリングストップ・急発進と急ブレーキの回数減少・高速道路での平均速度走行を徹底するなど、安全運転・低燃費運転の指導や研修を行い、環境負荷低減を心掛けています。

「環境に配慮している貨物輸送事業者」として、グリーン経営認証を取得した貨物輸送事業者を選定しています。

環境

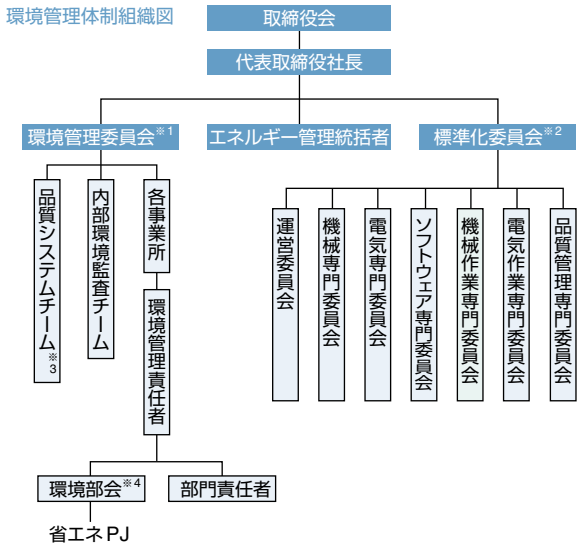
私たちは環境への負荷を常に意識し、持続可能な社会に向け、全員力で取り組みます。

環境マネジメント

■ 環境管理体制

「東京精密環境理念」に基づく環境保全活動を継続的に推進していくために、社内に「環境管理委員会」を設置し、ISO14001のマネジメントシステムに則り活動を行っております。
2009年4月より施行された「エネルギー使用の合理化に関する法律」の対応のため、エネルギー管理統括者を選任しました。

環境管理体制組織図



委員会の役割

※1【環境管理委員会】
環境管理活動を審議、推進する組織。環境管理委員長・副委員長、環境管理責任者（各サイト1名）、実行組織の代表（数名）で構成される。

※2【標準化委員会】
環境及び品質マネジメントに必要な規格、基準の作成、運用の推進を行う。

※3【品質システムチーム】
1. 環境管理システムの運営
2.「環境方針」、「環境管理マニュアル」の原案作成
3. 環境管理委員会資料の作成
4. その他両サイトに関係する事項の対策案作成または処理

※4.【環境部会】
各サイトに設置し、サイトの環境目的達成のための具体的推進を行う。

■ 内部環境監査

環境管理マニュアルに規定された社内の励行状況を確認するため、年2回の定期内部環境監査を実施しています。事務局が作成したチェックリストに基づき、主任監査員をチームリーダーとした2～3名が監査チームを編成し、監査を行っています。

■ 環境理念

● 環境基本理念

東京精密は、地球環境保全が人類共通の重要課題であることを認識し、開発·設計·生産·サービスの全域において、積極的に環境保全に配慮した行動をとる。

● 環境基本方針

東京精密は、半導体製造装置及び計測機器をはじめとする製品の生産、サービスを主とした事業活動において、全従業員が「この行動は地球にやさしいか」を常に配慮し、環境負荷を可能な限り少なくする。

● 環境行動方針

1. 「環境管理委員会」を頂点とする、全職性を軸にした環境管理体制を組織し、揺るぎない環境保全活動を推進する。
2. 環境関連の法律、条例、協定及び本「環境方針」を遵守し、自主目標を設定して、汚染防止、環境保全に取り組む。
3. 環境配慮した製品（省エネルギー、省資源、有害物質の不使用等）の開発・改善に努める。
4. 事業活動に伴う環境影響に関する以下の項目等について環境目的・環境目標に定め、継続的な活動を行うと共に内部監査等で見直しを行う。
   - 省エネルギー・省資源、廃棄物の削減・リサイクル等による天然資源の有効利用
   - 有害物質の適正管理と使用量の削減及び代替物質への転換
   - 温室効果ガスの排出規制による地球温暖化防止
5. 全社員に対し、環境保全に関する教育訓練を行い意識の向上を図る。
   また、協力工場に対しても環境保全活動についての理解と協力を求める。
6. 事業活動のそれぞれの業務を通じて気候変動対策や生物多様性保全を始めとした環境保全活動に取組み、より良い地球環境の実現につとめ、社会の発展に貢献する。
7. この「環境方針」は社内外に開示する。

■ 環境負荷

INPUT

エネルギー

電気	21,081 kWh
ガス	5,508 m^2
燃料（重油・軽油・灯油・ガソリン）	61,290 L

水

市水	16,172 m^2
井水	93,484 m^2

対象範囲／東京精密八王子工場・土浦工場
電力のCO_2排出係数0.46（2014年度係数）にて算出

効率化の工夫

開発・設計
- CAD 運用による作成図面のペーパーレス化
- 部品の一体化および集積化による点数の削減
- 環境配慮型製品の開発

資材調達
- グリーン調達、グリーン購入による環境負荷の低減
- 納品梱包資材の削減
- 通い箱の運用

サービス・メンテナンス
- サービスステーションの新設、移設で顧客へのアクセススピードアップ
- 燃料節約

加工・組立・検査
- 動線改善による作業効率化
- 検査自動化による作業効率アップ
- 工場設備の改善による省電力化

輸送
- アイドリングストップ
- グリーン経営認定業者の使用
- 計画的運行で輸送回数を削減

梱包
- 回収梱包廃材の廃棄物リサイクル化
- 環境にやさしいトウモロコシ原料の緩衝材を使用

リサイクル率 91.3%

OUTPUT

CO^2 排出量合計	9,850 t
電気	9,697 t
ガス（LPG）	8 t
燃料（重油・灯油）	0 t
燃料（軽油）	3 t
燃料（ガソリン）	142 t
工場排水	61,858 m^2
廃棄物	695 t
↓	
↓	
↓	
最終処分量	60 t

地球温暖化防止に向けた環境目標と実績

■ 環境目標と実績

2010年度より新5ヵ年計画を作成し、2009年度を基準として2014年度までに生産高原単位で年1%削減し、最終の2014年度までに5%削減することでスタートしました。5ヶ年計画の最終年度である2014年度までの活動結果は、エコファクトリーの項目である電力、紙、水、CO_2の削減については目標を達成しましたが、エコプロダクトの廃棄物リサイクル率の改善については目標値を達成することができませんでした。要因としては2012年より開始した切断・研削工具事業のリサイクルできない廃棄物の増加のためですが、2014年度からリサイクル化を開始したことによりリサイクル率は改善の方向に向かっています。リサイクル率以外のエコプロダクト、エコマインドについての取組み状況は良好の結果となりました。

2015年度からは新たに5ヶ年計画を立案し、エコファクトリーの電力、紙、水については2019年度までに生産高原単位5%削減することを目標として取り組むことになりました。CO_2の排出量削減については土浦サイトは生産高原単位5%削減に取り組むが、八王子サイトは東京都の総量削減義務の対象工場であることから、生産高原単位ではなく総量削減に取り組むことにしました。エコプロダクトについては海外の法規制の対応を考慮しRoHS適合製品の推進や有害化学物質の削減に取り組むことになりました。

	課題項目（2014年度まで）	2009年度実績	2014年度実績	評価	目的（2019年度目標値）
エコファクトリ	電力使用量 生産高原単位2009年度の5%削減	1,477万 kWh 689.22（kWh/百万）	2,108万 kWh 384.81（kWh/百万）	◎	365.57（kWh/百万）
	紙の購入量 生産高原単位2009年度の5%削減	15,863 kg 0.74（kg/百万）	30,832 kg 0.56（kg/百万）	◎	0.532（kg/百万）
	水資源の使用量 生産高原単位2009年度の5%削減	74,901 m^3 3.50（m^3/百万）	109,656 m^3 2.00（m^3/百万）	◎	1.9（m^3/百万）
	CO_2の排出量 生産高原単位2009年度の5%削減	5,752 t-CO_2 268.52（kg/百万）	八王子：7, 897 t-CO_2 土浦：2, 293 t-CO_2 0.151（t-CO_2/百万）	◎	八王子：2015年度～2019年度平均 7, 975 t-CO_2/年 以下※ 土浦：0.143（t-CO_2/百万）
エコプロダクト	環境配慮設計	―	省エネ製品の開発	○	八王子：既存製品に対して環境配慮製品設計で5%改善／土浦:省エネ製品の開発、環境配慮設計の促進
	RoHS適合製品の推進	―	―		2017年7月までにRoHS対象物質含有製品の出荷を原則禁止
	鉛フリー化	鉛フリーはんだでの新製品製作開始	鉛フリーはんだでの新製品製作拡大中	○	八王子：使用有害化学物質の代替を推進し、リスクレベルを下げる 土浦：2014年度の使用化学物質量を基準として5%削減 社内標準（TES　A-C600）に規定した対象用途に左記の3物質をはじめとする有害化学物質の使用を2006年の新製品から原則禁止とする
	六価クロムフリー化	六価クロムフリーにて全製品製作運用中	六価クロムフリーにて全製品製作運用中	◎	
	水銀フリー化	製品開発にて技術検討	製品開発にて技術検討	○	
	廃棄物対策 リサイクル率95%以上	廃棄物　269,936 kg 有効利用　236,848 kg リサイクル率　87.5%	廃棄物　694,779 kg 有効利用　634,469 kg リサイクル率　91.3%	△	毎年度リサイクル率95%以上
	グリーン調達の推進	運用中	運用中	○	―
エコマインド	グループ会社の環境活動推進	八王子道路アドプトの参加 省エネルギー活動の参画	TSSなどのグループ会社の環境活動推進	○	土浦：TSSなどのグループ会社の環境パフォーマンス向上
	社会貢献活動 1. 道路アドプト制度の周知と積極参加 2. インターンシップの受入 3. チャレンジ25への参画	1．隣接する公園の清掃 2．八王子道路アドプト活動	1. 隣接する公園の清掃 2. 八王子道路アドプト活動 3. インターンシップの受入 4. Fun to Shareの参画	○	1. 隣接する公園の清掃 2. 八王子道路アドプト活動 3. インターンシップの受入 4.Fun to Shareの参画
	環境報告書	休刊	10月発行	○	環境報告書の充実

※：東京都総量削減義務の第2計画期間（2015年度～2019年度）
温室効果ガス排出量　電気の排出係数＝0.489（2015年度係数）にて算出

評 価
◎：目標達成に十分な結果が得られた
○：良好
△：不十分 努力を要す

■ 地球温暖化防止への対応

東京精密グループは、地球温暖化防止を企業が取り組むべき重要課題として認識しています。
当社は、国内に生産拠点として八王子と土浦に工場を有しており、これらのエネルギー使用量は原油換算で1,500 kℓ以上に達しております。このため、省エネ法における特定排出対象業者に該当しています。また、八王子工場単体でも原油換算1,500 kℓ以上であるため、東京都の環境確保条例の対象事業所にも指定されております。

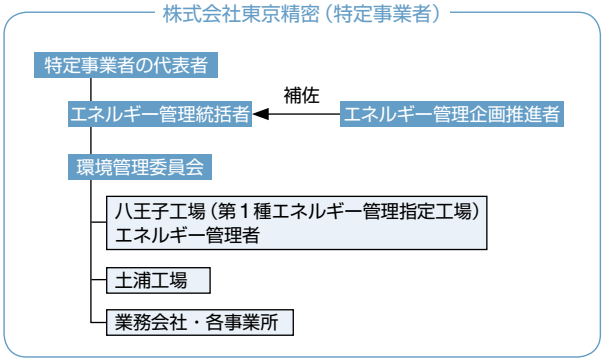
● 省エネ法対応　企業全体での取り組み

東京精密は、八王子工場が第1種エネルギー管理指定工場（平成15年と18年に指定）でしたが、省エネ法の改正に伴い特定排出対象事業者に指定され、企業全体としてエネルギー削減に取り組む体制を構築しました。
当社のエネルギー消費のほとんどは電力なので、電力消費量の削減が最重要と考えています。電力消費量を削減することで、地球温暖化ガスであるCO_2削減に取り組んでいます。削減量は、生産高原単位で前年比1%削減を目標に、社員一丸となって地球温暖化ガス排出量の削減にまい進してまいります。

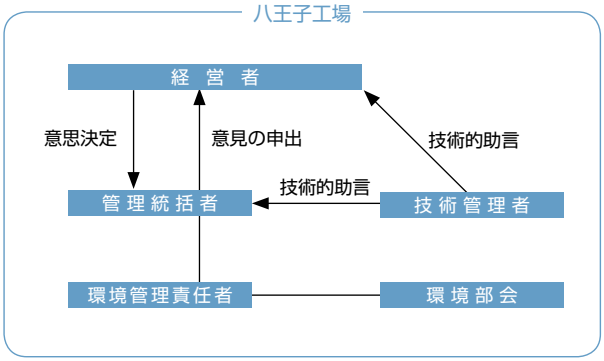
● 東京都の環境確保条例への対応

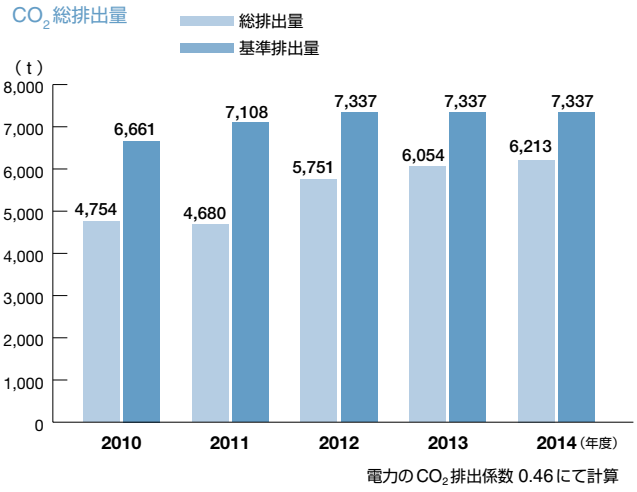
八王子工場は、東京都の環境確保条例に基づく総量削減義務と排出権取引制度の対象事業所に指定されており、基準排出量に対して2010年度～2014年度の5ヵ年で平均6%削減の義務を負っています。2014年度、八王子工場のCO_2排出量は6,213 t-CO_2で、2013年度の6,054 tに対して2.6%増加となりましたが、基準排出量7,337 t-CO_2に対して16.6%の削減となり、削減義務率6%を遵守することが出来ました。

企業全体でのエネルギー管理体制



八王子工場のエネルギー管理体制





電力のCO_2排出係数 0.46にて計算

エコファクトリー

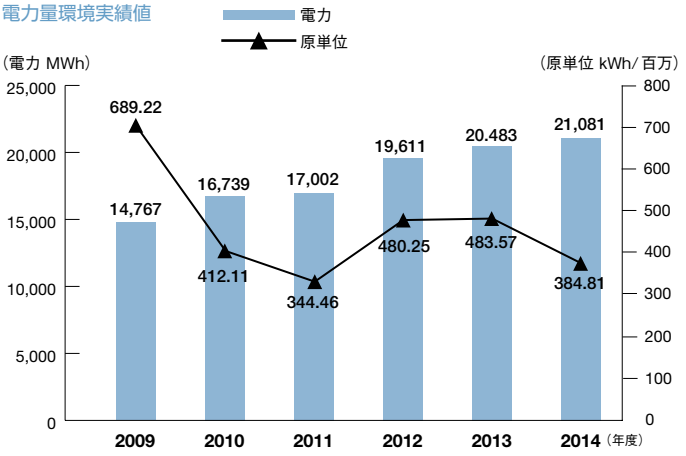
■ 省エネルギー

東京精密は、環境保全活動として2009年度の実績に対し、2014年度までに生産高原単位で5%削減することとし、毎年原単位で1%削減することに取り組んできました。
2014年度の使用電力量は2013年度に比べ生産増加に伴い約60万kWh増加しましたが、空調機の更新や運転管理、夏の時期の空調室外機への散水による効率向上や一部照明のLED化を実施した結果、生産高原単位では減少しました。当社のエネルギー消費の大部分は電力なので、今後も電力削減のために照明のLED化など省エネ活動を推進してまいります。

主な削減対策

1. 照明器具をLEDタイプに変換
2. 空調機・コンプレッサー等の施設・設備を省エネタイプに更新
3. 不要箇所の消灯運動、OA機器の時間外電源OFF
4. 生産工程を見直し、生産にかかる電力の削減
5. 純水設備の間欠運転
6. 部屋の統合による余分な空調機の運転停止

電力量環境実績値



対象範囲／東京精密八王子工場・土浦工場

■ 化学物質管理

● 特定化学物質

東京精密が扱う化学物質のうちPRTR法特定物質の基準量を越えている2物質について届出を提出しております。また、東京都の環境確保条例で定められた適正管理化学物質については、八王子工場において5物質を使用しており届出を提出しております。

● 化学物質の管理

東京精密は、社内規定で環境を汚染する可能性のある物質を定めており、これを取り扱う場合は環境管理責任者に全て届け出ることとしています。物質ごとの取扱量、保管場所、最大保管量等を把握するとともに、SDS※および緊急対策用具を備え、不測事態対応のための定期的訓練を実施しています。

※ SDS…Safety Data Sheetの略で「安全データシート」と呼ばれる。化学品の名称や製造企業名、取り扱い法、危険性や有害性の種類、物性、環境への影響、安全対策、応急対応、緊急時の対策などの関する情報が、化学物質ごとにまとめて記載されている。PRTR法では、メーカー等の企業が化学物質の排出量や廃棄物の移動量を集計し、自治体を経て国に報告することになっていて、SDSの添付が義務付けられている。

■ 廃棄物対策　リサイクル率向上

徹底した社内の廃棄物削減対策はもとより、社外に対しても協力を要請するなどして、廃棄物の削減とリサイクル率の向上に努めています。

1. 金属屑
- 鉄・アルミ・ステンレスは有価物として売却
- 削りしろを最小化する図面の見直し
- 鋳物、ロストワックスへの移行

2. 廃プラスチック
- 簡易包装・通い箱の実施など、サプライヤーへの協力要請
- 減溶化してマテリアルリサイクル※1（半導体社）
- サーマルリサイクル※2化→化石燃料の代替燃料（計測社）

3. 汚泥
- 排水処理装置、系統の見直し
- 埋め立て処分→埋め戻し材への再利用

4. 紙・木材
- 社内文書の裏紙使用
- 簡易包装・通い箱の実施など、取引先への協力要請
- 古紙・ダンボール材は有価物として売却
- 木材（合板を除く）はチップ用として再利用処分
- マニュアルのCD-ROM化で紙使用を削減

5. 廃電気材
- 電線屑・基盤屑・廃OA機器は有価物として売却

6. 非分別不燃廃棄物
- 分別収集の徹底によるリサイクル品の回収
- 廃棄物収集箱、収集方法の改良

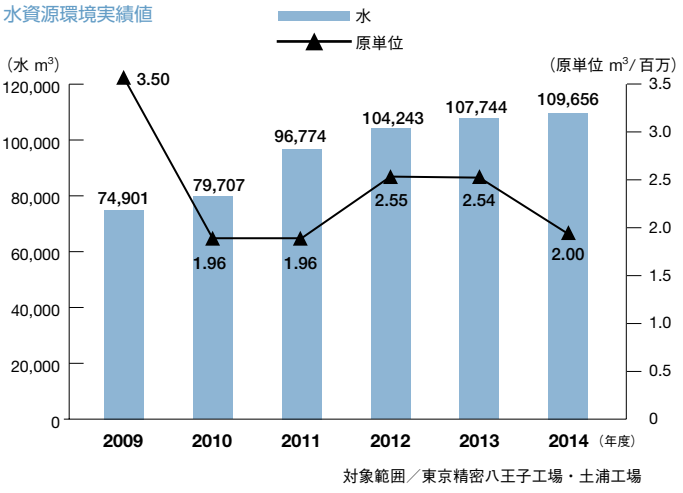
7. 廃油・廃液
- 油水分離により再生重油/助燃油としてリサイクル
- 有価物回収及び再資源化

※1 マテリアルリサイクル
…廃プラスチックなどの廃棄物を製品の原材料として再利用
※2 サーマルリサイクル
…廃棄物を燃やした際に発生する熱をエネルギーとして再利用

■ 用水管理

用水は主に井戸を使用しています。2014年度は2013年度に比べ生産が増加したため水の使用量1,771 m³は増加しましたが、生産高原単位では減少しました。井水の揚水量は事業拡大に伴い増加しておりますが、増加を抑えるために次の対策を講じています。

1. クーリングタワー補給水の電導度管理値を変更し、井水使用量を削減（八王子工場）
2. 純水設備の間欠運転による井水使用量の削減（八王子工場）
3. チラー冷却水を放流式から循環式に変更（八王子工場）
4. 排水処理施設（八王子工場）
5. 空調設備をチラー方式から電気式に変更（土浦工場）



対象範囲／東京精密八王子工場・土浦工場

環境保全活動の歩み

1996年
- 7月 環境保全活動の教育訓練を開始
- 9月 環境委員会を設立

1997年
- 2月 「環境理念」制定。環境負荷調査を八王子・土浦の両工場および各部署で開始
- 5月 環境管理マニュアルを制定

1998年
- 3月 ISO14001認証を両工場で一括取得
- 9月 「MOTTO（行動指針）」を制定

1999年
- 11月 廃棄物の焼却炉を停止、その後撤去（半導体社）

2000年
- 3月 CMP、バックグラインダ等の排水処理施設の運転開始（半導体社）
- 5月 重油ボイラーによる暖房設備、地下重油タンクの撤去（半導体社）

2001年
- 4月 ISO14001認証を更新
- 5月 八王子工場新本館使用開始

2002年
- 3月 自家用焼却炉廃棄（計測社）

2003年
- 3月 「ACCRETECHグリーン調達ガイドライン」を制定

2004年
- 2月 空調設備を重油ボイラーから電気式に更新（計測社）
- 8月 「ACCRETECHグループ行動規範」を制定
- 9月 環境報告書発行

2005年
- 2月 土浦工場の特定施設廃止
- 4月 安全に関わる表彰事業所として茨城労働局長奨励賞受賞
- 4月 八王子・土浦新工場使用開始
- 6月 ISO14001認証 2004年度版取得
- 7月 サプライヤーに対する六価クロムフリーの説明会を実施

2006年
- 1月 六価クロムフリー実施
- 4月 ハロン消火器の全廃完了
- 6月 クールビズ実施
- 10月 新製品より鉛フリーはんだでの生産開始（半導体社）

2007年
- 2月 優秀省エネルギー機器表彰制度でレーザダイサが日本機械工業連合会会長賞受賞

2008年
- 3月 消防総監表彰状受賞

2009年
- 11月 八王子工場「優良防火対象物認定」を更新

2010年
- 8月 東京都から道路アドプト表彰

2011年
- 6月 八王子第5工場竣工
- 11月 環境方針改定

2012年
- 7月 切断・研削工具の事業開始

2013年
- 3月 ISO14001適用範囲に切断・研削工具を含め認証取得

2015年
- 6月 八王子工場太陽光パネル設置、稼動

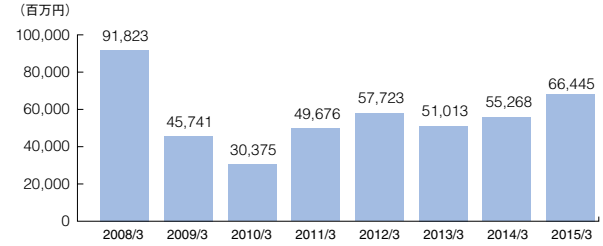
東京精密の会社概要

私たち東京精密は、精密測定機器および半導体製造装置メーカーとして、お客様の高生産性に寄与できる製品開発と共にカスタマー・サポートを提供しています。
「共に成長する」という意味の“accrete”と“technology”の合成語である「ACCRETECH（アクレーテク）」というコーポレートブランドは、世界一の製品創りのための知恵を結集し、パートナーやお客様と共に成長していくという東京精密の強固な意志を凝縮しています。
このコーポレートブランドの下、当社は自信を持って製品を市場にリリースしています。

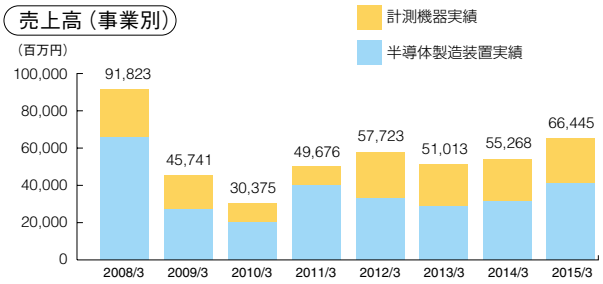
会社商号	株式会社　東京精密 TOKYO SEIMITSU CO., LTD.	
本社所在地	〒192-8515　東京都八王子市石川町 2968-2	
設立年月日	昭和 24 年 (1949 年) 3 月 28 日	
資本金	10,295 百万円　(2015 年 3 月 31 日 現在)	
売上高（連結）	66,445 百万円（2015 年 3 月期）	
従業員数（連結）	1,447 名（2015 年 3 月 31 日現在）	
主要取扱製品	半導体製造装置	ウェーハプロービングマシン、ウェーハダイシングマシン、 ポリッシュ・グラインダ、CMP 装置、 ウェーハマニュファクチャリングマシン、精密切断ブレード
	計測機器	三次元座標測定機、表面粗さ・輪郭形状測定機、 真円度・円筒形状測定機、マシンコントロールゲージ 各種自動計測・選別・組立機

財務データ(連結)

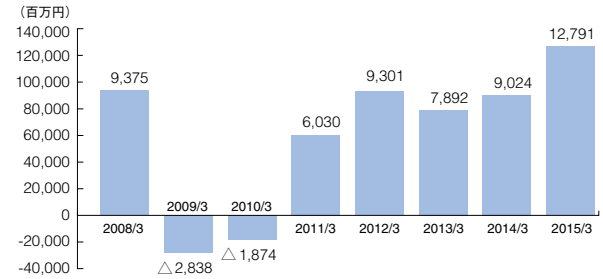
売上高



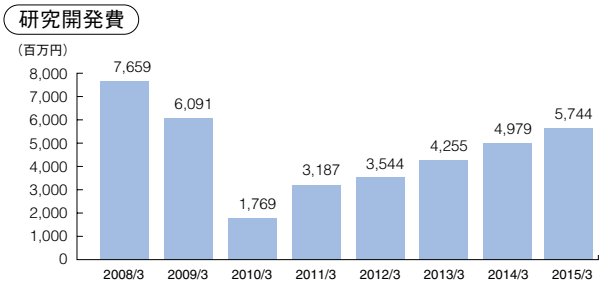
売上高（事業別）



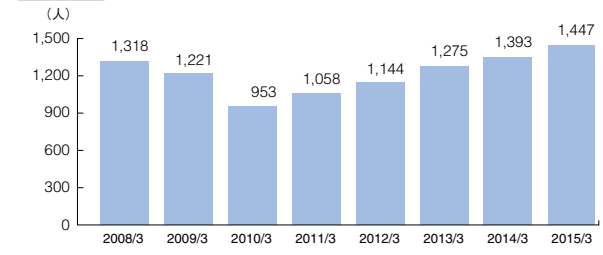
経営利益



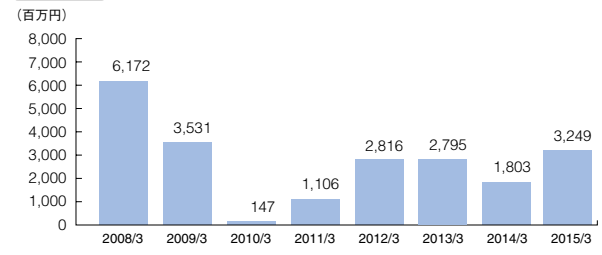
研究開発費



従業員数



設備投資



半導体社

事業所名　半導体社 八王子工場
所在地　〒192-0032 八王子市石川町2968-2
第一種エネルギー管理指定工場
事業内容　半導体製造装置、切断・研削工具の製造
1963年
敷地面積　45,452 m^2
ISO取得日　1998年3月7日

半導体社は、省エネ法のエネルギー管理指定工場であり、東京都の環境確保条例の対象事業所にも指定されております。半導体社のエネルギー使用のほとんどが電力であることから、エネルギー管理体制を構築し、各職場で省電力活動を推進しております。
また省資源活動として、水資源、紙購入量、廃棄物などの削減に取り組み、環境負荷の軽減に取り組んでおります。

環境データ	電力消費量（MWh）	CO_2（t-CO_2）	用水／排水（m^3）	廃棄物（t）
消費量	16,197	—	105,381	—
排出量	—	7,577	57,583	382

水質測定	国の規制値	条例／協定値	自主基準値	実測値（八王子）	実測値（第3工場）
水素イオン濃度pH	5.8～8.6	5.7～8.7	6.0～8.5	7.1	8.0
生物化学的酸素要求量 BOD mg/ℓ	—	300	150	95	11
化学的酸素要求量 COD mg/ℓ	—	—	10	0.25	0.1
浮遊物質 mg/ℓ	—	300	100	68	15以下

計測社

事業所名　計測社 土浦工場
所在地　茨城県土浦市東中貫4
事業内容　計測機器の製造
操業年　1969年
敷地面積　17,000 m^2
ISO取得日　1998年3月7日

計測社では、消費電力の約7割が空調設備によるものとなっています。これは品質保持のため一定の温度環境が必要なためです。消費電力の大きな職場では、空調の削減を環境目標に取り上げて推進しています。また、設計図面や取扱説明書などに使用する紙についても、CD-ROM化などの取り組みにより削減の成果が出ています。

環境データ	電力消費量（MWh）	CO_2（t-CO_2）	用水／排水（m^3）	廃棄物（t）
消費量	4,883	—	4,275	—
排出量	—	2,273	4,275	292

ACCRETECH

株式会社 東京精密
環境管理委員会
〒192-8515　東京都八王子市石川町 2968-2
TEL：(042) 642-1701　FAX：(042) 642-1821
URL：http://www.accretech.jp

ISO 9001
ISO 14001
BUREAU VERITAS
Certification

八王子・土浦工場一括でISO9001、ISO14001を取得

A-015-J-1511